

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893000026		
法人名	社会福祉法人 明岳会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護支援事業所 げんき村	ユニット名	
所在地	〒300-0121 茨城県かすみがうら市宍倉5696-3		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kihon=true&JigyosyoCd=0893000026-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年11月20日	評価機関 決 済 日	平成27年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご本人・ご家族の希望や不安に思っていることを良く聞き取り、サービスに反映させることで、げんき村があるから安心して在宅生活を続けることができると言ってもらえるようにしたい。
また、ご本人が何も諦めることなく、やりたいことに挑戦したり、自分らしい生活ができるよう支援したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路から100メートル程脇に入った場所に立地しており、広大な敷地内に同一法人の介護利用型軽費老人ホームや、通所介護事業所が隣接しているほか、遊歩道で結んで遊具を備えた公園や、気軽に動物と触れ合う事ができるようラマや鳥を飼育し、四季の移り変わりを肌で感じながら静かに過ごすことができる環境となっている。
かすみがうら市では初めての小規模多機能型居宅介護支援事業所であることから、地域の人々に事業所の存在と支援内容の把握をしてもらえるよう、日々市担当者や運営推進会議参加の委員に相談し、助言を得ながら近隣住民宅を訪問したり、チラシを配るなどして地域に密着した事業所になれるように努力をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念「いつまでも明るくお元気に」をモットーに、事業所としては「安心して笑顔で過せる居場所を作ります」を理念として実践につなげている。	法人の理念「いつまでも 明るく お元気に」と事業所独自の理念「安心して笑顔で過せる居場所を作ります」を掲げ、職員が出勤時に確認ができるよう玄関内に掲示し、日々実践に結び付けている。 事業所独自の理念は管理者と職員で作成しているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念には至っていない。	管理者と全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するとともに、定期的に全職員で理念を再確認しながら共有し、実践に結び付けることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民が多数参加する当法人の行事があるので、幼・小・中学校の生徒との交流や、ボランティアの受け入れを行っている。	年1回隣接する同一法人の介護利用型軽費老人ホーム主催で行う「納涼祭」に、利用者や家族等が参加して地域住民と交流ができるように支援をしている。 「納涼祭」ではボランティアによる演奏や踊りなどを披露するほか、利用者と職員で制作した粘土細工や手作りケーキのバザー、職員手作りの焼きそば、おにぎり、おでん、フランクフルト、カレー、かき氷、ビール、ジュースなど、食券を発行して提供し、地域住民も含めて200名程の参加者を得ている。 年1回近隣の幼稚園児の来訪や、常時近隣の小学生の事業所見学を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの介護や認知症に関する相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣住民・民生児童委員・市役所職員・利用者家族・ケアハウス施設長等により構成される協議会を設置して、事業報告を行い、必要な要望、助言を聞く機会を得て、サービスの質の向上を目指している。	運営推進会議は家族等の代表や地域包括支援センター職員、民生委員、ボランティアの代表、代表者、管理者で2ヶ月に1回開催している。 家族等から多くの意見等が得られるよう、毎回家族等を変えて依頼をしているが、ほとんど家族等の参加は得られていない。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 委員から「どうして利用者の人数が増えないのか」や「支援内容などを地域住民に把握してもらってはどうか」などの疑問や助言を受け、管理者は地域住民宅を訪問して事業所のチラシを配ったり、近隣の病院にパンフレットを置かせてもらったりしてPRに努めている。	地域住民に事業所と支援内容などを知ってもらうため、運営推進会議に地域の区長や老人会長などの参加を得て、意見や助言を得ることを期待する。 毎回家族等の参加を得るためのほか、多くの委員から意見や助言を得て活発な運営推進会議になるよう、開催日を年間計画に組み入れ、委員の予定が立て易くしたり、事前に議題を決めて委員に伝えることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員に参加していただき、サービス状況の報告を行って、利用者の実情や今後の課題についてアドバイスをいただいている。	管理者は要介護更新認定申請などで、定期的に市担当者を訪問し、運営状況や空き情報を報告して協力関係を築くように取り組んでいる。 市担当者は事業所の近くに来た際には事業所に来訪し、介護保険制度の改正やお知らせなどを伝えてくれるほか、管理者は「どうしたら利用者を増やせるか」や「利用者が生活保護を利用する時にはどのようにしたら良いのか」などを相談したり、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内においても、高齢者虐待防止学習テキストを教材に職員一人ひとりが理解を深めている。	身体拘束や行動制限を行わないことを重要事項説明書に明記するとともに、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。 管理者は身体拘束排除マニュアルを作成しているが、現在身体拘束を行っていないことから、身体拘束をしないケアの研修を実施するまでには至っていない。 やむを得ず身体拘束をしなくてはならない場合に備え、同意書は整備しているが、経過観察記録や再検討記録などの書類は整備するまでには至っていない。	昨年度の課題でもあった研修の実施が達成されていないので、身体拘束をしないケアに向けての研修を実施し、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解することを期待する。 やむを得ず身体拘束をしなくてはならない場合に備え、経過観察記録や再検討記録などの書類を整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の起こらない環境づくり、早期発見のため介護者と連携をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日所生活自立支援事業を利用しながら生活できるように社協と連携しながら、必要に応じて制度を利用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書と重要事項説明書に基づき、ご本人とご家族(代理人)に、十分な説明をしてご理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通いの方は、連絡帳や送迎の時間を利用して、ご家族とコミュニケーションを図れるようにしている。泊りの方は自宅へ帰るときに施設でのご様子をお伝えする。利用日の変更や時間の変更は電話などで受付している。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは送迎時やサービスの提供記録の「連絡帳」に記載してもらったり、電話などで意見や要望を聴くように努めている。 家族等から「迎えの時間を30分早くして欲しい」や「通いの利用者も朝食を食べさせて欲しい」などの要望を受け、管理者はお迎え時間の出発を少し早めたり、送迎の順番を変えるほか、希望がある通いの利用者も朝食が食べられるようにするなど、改善をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見や提案があれば、聞いている。毎月一回定期的な会議は開いており、職員の意見や提案を取り入れており、サービスの向上を図っている。	代表者は年1回職員一人ひとりと個人面談を行い、日々の勤務体制や意見、要望を聞くように努めている。 管理者は月1回の職員会議に職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、休憩時間にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える環境づくりに努めている。 職員から「夏場の昼寝用にタオルケットを購入して欲しい」や「家族等から寄付してもらったテニスボールの活用として、椅子の足に付けたら椅子が軽く移動できるのではないか」との要望や提案を受け、タオルケットの購入やテニスボールの活用を試みるなど、職員の要望や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回職員に対して、一人ひとりと面接をして、目標管理することにより、成長を実現する。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修に積極的に参加させる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のケアマネジャー協会、21世紀委員会などに入会して、交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者が一番不安に思っていることを中心に、その周辺に存在している不安要素にも注意して、できるだけ本人に話していただけるようにゆっくり時間をかけて話を聴き、関係づくりに努めている。一泊2日までは無料で体験できる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることをじっくり聴いて、ご本人との関係性を考え、どのような要望があるのかを見極め、サービスの必要性を確認して、意見を交換しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていることを一緒に考えて、どうしても必要なサービスは何かを見極めている。ほかのサービスの利用の方がよい場合は他事業所と連携して、サービス利用を考えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、テーブル拭き、畑や庭の草取り、野菜の苗や花を植えたり、野菜や果物の収穫、動物へ餌やりをお手伝いしていただいたり、お掃除を手伝っていただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎時や連絡帳を利用して、ご家族との情報交換を図っている。随時、電話でも対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族との関係が途切れないように支援している。こちらに来所しているときに親族の方が訪ねてくれている。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の馴染みの友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように努め、馴染みの人との関係が途切れないように支援をしている。 月1回馴染みの理・美容師が利用者の散髪に来訪している。 職員は利用者が馴染みの洋品店に行きたい時には支援をするほか、家族等の協力を得て墓参りに行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの性格や既往歴を考えて必要なときには職員が間に入って会話が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や支援していただけるように努める。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや暮らし方の希望を把握できるようなアセスメントや会話に努めている。家族等から利用者の生活歴を確認している。利用者との係わりの中で、利用者の言動や表情から思いや意向を把握するとともに家族等の意見も参考にしている。	管理者や職員は契約時のアセスメントから利用者の生活歴を把握しているほか、日々の関わりの中で会話や行動を観察しながら思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合には、表情やしぐさから判断したり、送迎時に家族等から情報を得ているほか、職員で話し合って利用者の思いなどを汲み取るように努めている。 把握した内容は、「連絡帳」と「個人ファイル」に記載して、家族等と全職員で共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を生活歴や生活環境をじっくり聞いて、把握に努めている。ご利用者同士でも昔の話をしているので、その会話にも参加している。また、ご家族にもどんな生活をしてきたのかを確認して、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	血圧や体温を測定し、体調をうかがって暮らしの現状の把握に努める。家族等にも家庭での状況をうかがっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族を中心に、ケアマネや職員、他事業所と話し合い、本人の意向に沿えるような介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、医師や看護職員、職員の意見を取り入れて作成するとともに、毎月モニタリングを実施して3ヶ月から6ヶ月毎に見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にサービス実施結果や気づいたことを記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス予定日以外でも受け入れができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方が畑を手伝いに来てくれたり、草取りのボランティアで来てくれる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある方には定期的に病院へ受診や付き添いを行い、かかりつけ医と連携し関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明している。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本としているが、家族等が付き添えない場合は、職員が受診を支援している。 受診結果は家族等から報告を受け、「個人ファイル」と「連絡帳」に記載し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な観点から気付いた点を報告してもらい、適切な処置や対応ができるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には医療機関と連携をとって、退院後のケアについて本人及び家族が安心して生活していけるような支援体制をしている。ほかに必要なサービスがあれば他事業所に相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人としては、当事業所において、これからも重度化や終末期の方は体制が難しいので、受け入れが困難である。当事業所でできることは支援するが、他事業所にも相談する。	事業所は看取り介護を行わない方針であるが、「看取り指針」を作成したり、利用者や家族等に説明して書面で同意を得たりするまでには至っていない。 管理者と職員は利用者が重度化した場合に備え、「重度化対応マニュアル」を作成したり、重度化ケアに向けての研修を実施するまでには至っていない。	看取りは利用者や家族等にとって最も重要な部分でもあることから、事業所の「看取り指針」を作成し、利用者や家族等に説明するとともに、書面で同意を得ることを期待する。 管理者と職員は利用者が重度化した場合の支援に備え、「重度化対応マニュアル」を作成し、定期的に研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	速やかに、市町村、利用者家族に連絡を行うとともに必要な措置を取ります。危機管理マニュアルに沿って対応するとともに再発防止に努めます。事業所の責務に帰すべき事由に賠償すべき事故が発生した場合には速やかに損害賠償を行います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	速やかに安全を確保し、人命救助に努めます。当法人の危機管理マニュアルに沿って防災訓練を行い、非常時に備えます。災害対策は、法人全体で避難訓練や防災訓練を年4回程度行っている。	隣接する同一法人の介護利用型軽費老人ホームと通所介護事業所合同で、年4回避難訓練を実施しているが、夜間想定での訓練や地域住民の参加を得るまでには至っていない。 避難や通報、消火器の使い方などを訓練しているが、記録は避難訓練計画書と反省のみで、訓練後に管理者と職員の話し合いや実施記録、今後の課題など、次回に向けた記録を残すまでには至っていない。 災害に備えて水やレトルトご飯、レトルトカレー、缶詰、布団、簡易トイレ、テント、炊き出し用釜などを備蓄品リストで管理しながら備蓄している。	昨年度の課題でもあった夜間想定と地域住民の参加を得た避難訓練や訓練後の管理者と職員との話し合いなどが達成されていないので、運営推進会議などの委員の協力を得て達成することを期待する。 訓練後は管理者と職員で話し合った結果を次回の訓練につなげるよう記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報提供同意書に押印をいただいている。また、一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉づかいや態度を心掛けている。	管理者と職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援をしている。 管理者は月1回の職員会議時に、職員が利用者に対して言葉遣いや利用者のプライバシー確保に向けた支援ができていないか、注意を促している。 職員はトイレ誘導時には小声で声をかけるほか、トイレのドアを閉めて扉の外で待つなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報に関する書類は、事務室の施錠ができる書棚に保管し、情報漏洩に留意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が話しやすいような話題を提供したり、意思が決定しやすいような質問で話しかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自宅にいるような雰囲気、ご利用時間の中で、出来る限りその方に合ったペースで過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後にお着替えをするときに季節に合った格好を促している。手足の爪がのびているときには切っている。散髪は訪問理容が来てくれるので、希望者はカットしたり、顔そりをしてもらう。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け、テーブル拭き、畑や庭の草取り、野菜の苗や花を植えたり、野菜や果物の収穫、おそうじを手伝っていただいている。	献立は隣接する同一法人の介護利用型軽費老人ホームの管理栄養士がカロリーを計算し、同老人ホームの職員が調理をしている。 事業所の職員は、調理したおかずや味噌汁を取りに行くほか、ご飯は事業所内で毎食炊き、食事が楽しめるよう自家菜園で収穫したきゅうりや茄子、ミニトマト、じゃがいも、オクラ、ブルーベリーなど、新鮮な野菜や果物を食材に取り入れている。 誕生日会にはケーキで祝ったり、行事の際には特別食を提供しているほか、外出に出かけたりして、食事が楽しみなものとなるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はまめに補給を促している。各食事、来所時や入浴後、おやつには提供している。食事の栄養は栄養士や病院の看護師などに相談しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に、利用者同士で行ったり、職員と一緒にいる。就寝前にはできるだけ外している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成して、排泄のパターンを把握して、安全にトイレに行けるように支援している。夜間にトイレに行くときは必ず付き添うようにしている。職員はタイミングを見計らって声かけやトイレ誘導を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らってトイレ誘導をし、トイレで排泄ができるように支援をしている。 日中はパッドとリハビリパンツを使用して、トイレで排泄ができるように支援するとともに、宿泊サービスを利用している一部の利用者には、居室にポータブルトイレを配置して自立に向けた支援をしている。 失敗した場合は周りに気付かれないようさりげなくトイレや風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないように配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、排便の有無やお腹の調子をうかがい、便秘の方には水分を多めにとってもらおうようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限り本人の望んでいるタイミングで入浴していただいている。入浴が困難な方は清拭を行っている。	風呂は毎日沸かし、通いサービスの利用者は午前中に、宿泊サービスの利用者は週4回を目安に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、「寒いから温まりましょうね」と話しながら風呂場の前までさりげなく誘導するなど、工夫して入浴ができるように支援をしている。 端午の節句には「菖蒲湯」や冬至には「柚子湯」にするなど、季節感を取り入れて入浴が楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーや和室、居室などお好きなお休みいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに処方箋があり、薬についての情報の共有と理解を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や読書をしたり、テレビをみんなでみたり、ラジオ体操をしたり、畑で野菜や果物をとったり、カラオケを楽しんだり、好きなことをやってもらっています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望をうかがい、2回に分けて外出に行ったり、買い物へ行ったりする。天気の良い日には敷地内の公園で外気浴を楽しんだり、遊歩道を自由に散歩している。また、行事として同法人のケアハウスと合同で外出に参加している。	天気の良い日には利用者と職員と一緒に事業所内の遊歩道を散歩して五感を刺激し、事業所で飼育しているラマにエサをやりに行くなど、利用者が気軽に外気にふれられるように支援をしている。 利用者が四季の移り変わりを肌で感じたり、地域住民と交流ができるように近隣の公園にある桜や銀杏を見に行くなどの支援をしている。 隣接する同一法人の介護利用型軽費老人ホームで外出支援を計画しており、水戸市にある植物園見学や石岡市の果樹園に柿を食べに行くなど、一緒に利用者と職員も参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要なときに使う事ができるように管理し、お金を所持したり使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話したいときには事業所のお電話を使っただいてます。または、隣接の施設内の公衆電話があるので、そちらまでご案内する。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、庭にある季節の花や野菜、果物を飾ったり、七夕やお月見やお盆の時にはすすきや菊などを飾っている。テーブルや椅子の高さを調節して使いやすいようにしている。	玄関の棚に手指消毒薬やマスクを置いて衛生管理をしている。 居間兼食堂は高い天井の天窓から明るい採光と暖かい日差しが差し込み、天井に吊るされた天井扇がエアコンから出ている温風や冷風を調節し、快適に過ごしやすい環境となっている。 居間兼食堂にテレビやソファを配置し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしているほか、壁には利用者と職員と一緒に折り紙で作った季節の花を飾り、季節感を醸し出している。 脱衣場は浴槽と温度差がないようエアコンを設置するとともに、転倒防止に椅子を配置しているほか、浴槽に手摺を設置して利用者が安心して入浴ができるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を設置して、好きな場所にいられるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただいている。泊りの部屋は和室と洋室があり、希望の部屋を選択できるよう配慮している。	居室は和室と洋室があり、エアコンや整理箆、ベッド、布団、カーテン、洋室には洗面台が備え付けられている。 管理者は利用者が宿泊サービスを利用する場合は、以前利用者が宿泊した部屋を提供できるように配慮をしている。 利用者は家族等と相談しながら置時計や洗面道具、テレビ、携帯電話、洋服など、使い慣れた物品を持ち込んで居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースにトイレには手すりがあり、安全に生活できる。畑に行く出入り口にもスロープと手すりがあり安全に移動できる。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能げんき村

作成日 平成27年4月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		事業所自体が地域との交流がない。	地域との関係を構築し利用者が日常的に地域住民と交流しながら生活できる	行事を行う際に近隣に在住のボランティアを呼び交流を図る。	8か月
2		運営推進会議での助言が活かされていない	運営推進会議での助言を生かし、利用人数の増加に繋げていきたい	委員の方から、積極的に地域住民の様子を伺い、イベント等に参加させて頂き、利用者様増に繋げていく。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。